

# 政務調査研究視察 報告書

平成 19年11月21日

会 派 名 自 民 清 風 会

代 表 者 名 中 根 勝 美 殿

視 察 日	平成19年10月11日(木)～10月12日(金)
視 察 内 容	第69回全国都市問題会議(静岡市民文化会館)
視 察 者	新海正春、柴田泉 報告者:柴田泉
	<p>参加人数2,012名</p> <p>会議内容</p> <p>{メインテーマ} 分権時代の都市とひと一地域力・市民力—</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全国市長会会長秋田市長佐竹敬久氏の開会挨拶があり続いて開催市の静岡市長小嶋善吉氏の挨拶最後に来賓の静岡県知事石川嘉延氏の代理より祝辞が続けてあり会議の開催となった</li></ul> <p>第一日目会議</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・基調講演として奈良県立万葉文化館館長中西進氏が「新しい時代の都市と人間」についての講演があり、都市と地方の成り立ちから各個人の家を中心とした市の目線が人間を対象とした視線で行政を実施することが大切であり正しいあり方である。</li></ul> <p>そこで人間を焦点とする都市活動とは以下3点をあげて説明をしている</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第一に、都市が「人間の顔が見える」共同体である</li><li>第二に、人間が参加する共同体である</li><li>第三に、文化を尊重する共同体である</li></ul> <p>そのことから都市と人間が協調できる活動単位は500万人が最大と考えられる</p> <p>常に人間の顔が見える行政を目指すことが第一である</p> <p>私たち地方議員は常にそのことを心得ていかなければならないと感じました</p> <p>次に主報告として「きずな」がつくる新たな地域社会と題して静岡市長の小嶋善吉氏より講演があった</p>

市民協働の取組みについて静岡市は提案制度として「市民活動協働市場」と「協働パイロット事業」を実施している

自主防災組織については学校関係者、連合自主防災会長、市職員の地区支部員とさらに地元の医師を含めた「四者会合」を実施している

デイサービス事業についてはS型デイサービスを実施している

S型とは小規模（スモール）の意味で全市で2,058人のボランティアが運営にあたっており市の職員は含まれていない

「大道芸ワールドカップ in 静岡」の取組みについてはハードの必要ない地元の特性を生かした行事にして学生の力を取り入れている

一般報告で

「もっとご近所つきあいをしましょうよ」としてNHKアナウンサーの堀尾正明氏

「市民力を結集する大分新時代のまちづくり」として大分市長の釘宮磐氏

「徳川家康のまちづくりひとづくり」として静岡大学教育学部教授小和田哲男氏がありました

それぞれマスメディアの力、市民力、史実によるまちづくりが必要となってくる

第二日目

パネルディスカッション

{テーマ} 「分権時代の都市とひとー地域力・市民力ー」

「コーディネーター」 法政大学法学部教授 名和田是彦

「パネリスト」 ローカル・ガバナンス研究所所長 木原勝彬

認定特定非営利活動法人言論NPO 代表 工藤泰志

株式会社いろどり代表取締役副社長 横石知二

埼玉大学大学院経済科学研究科教授 後藤和子

北海道伊達市長 菊谷秀吉

東京都多摩市長 渡辺幸子

の皆様による地域力・市民力についてそれぞれの意見発表がありました。

まず名和田教授より自治会町内会とテーマ型の活動について

コミュニティ・レベルの主要なアクターとして自治会町内会は重要な担い手である

として意見がありそれに対して

パネラーの木原所長が 団体自治の基礎となる住民自治の強化が必要である

工藤代表は 国と地方の縦軸に市民が公（おおやけ）を担うという横軸を加えて

二元論で組み立てるべきだと主張されました

横石副社長は「人は誰でも主役になれる」地方（田舎）だからできることが

あるよとの実績を発表されました

後藤教授は 文化政策の基本的な考え方と人づくりが、現代の都市や地域の

パブリックスペース（公共空間）を構成する重要な要素となりますよとのこと

菊谷市長は 金のない地方の発展には人の誘致であり伊達市のウェルシーランド

構想の成功は行政と民間の任務分担をきちんとすることが大事であったとの

発表でした

渡辺市長は 市民が主役のまちづくりを基本として自立の市政を目指しているとの

発表でした

それぞれ実際の社会で実行された体験をふまえての発表であり

参考になりました

#### 〔感想・岡崎市への反映〕

本市において反映できる点は、身の丈に合った事業及び計画を立案してゆくのが

基本である

民間の力をいかに行政に取り入れるのか その民間の力は行政のリードが正しい方向

でないとかけ声だけのものになる

そこで本市としてはパブリックコメント等の意見集約の段階で行政の進む方向を

しっかりと示して会議に臨むことをお願いしておきます